

トビウオ通信 (H31 第1号)

http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/ (TEL 0855-23-4806)

《平成30年漁期前半の底びき網漁業の動向》

小型底びき網漁業 (かけまわし)

1隻当り漁獲量・金額とも平年並み

島根県の小型底びき網漁業(かけまわし)42隻の平成30年漁期前半(平成30年9月1日～12月31日)の総漁獲量は1,950トン、総水揚金額は8億7,465万円でした。1隻当り漁獲量は46トン、水揚金額は2,082万円で、漁獲量、水揚金額ともに平年並みでした。

ソウハチ好調、ムシガレイ低調

主要魚種であるソウハチの1隻当り漁獲量は7.3トンで前年並み、平年の1.2倍の水揚げでした。一方、ムシガレイの1隻当り漁獲量は1.6トンで、前年の1.3倍でしたが、平年の8割の水揚げに留まりました。また、メイタガレイの1隻当り漁獲量は0.8トンで、平年の1.2倍の水揚げでした。

ケンサキイカ・ヤリイカともに前年より増加

ケンサキイカの1隻当り漁獲量は2.0トンで平年の8割の水揚げに留まりましたが、前年の1.7倍であり、平成26年以降増加傾向となっています。ヤリイカの1隻当り漁獲量は1.6トンで、平年の7割の水揚げに留まりましたが、前年の1.9倍の水揚げでした。

アカムツ好調、キダイ・アンコウは低調

アカムツの1隻当り漁獲量は3.0トンで前年の1.6倍、平年の1.7倍の水揚げとなりました。また、キダイの1隻当り漁獲量は2.5トンで平年の6割、アンコウの1隻当り漁獲量は2.9トンで平年の7割、ニギスの1隻当り漁獲量は4.2トンで平年の8割の水揚げに留まりました。

アナゴ類好調、マダラは平年並み

その他、アナゴ類の1隻当り漁獲量は3.2トンで、前年の1.6倍、平年の1.4倍の水揚げとなりました。また、マダラの1隻当り漁獲量は2.9トンで、前年の8割、平年並みの水揚げとなりました。

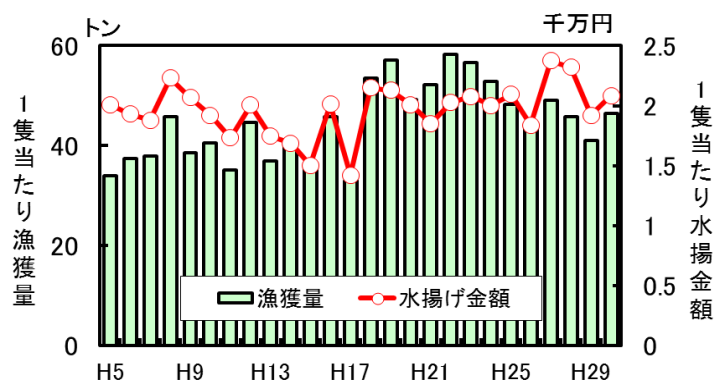


図1 小型底びき網漁業における1隻当り漁獲量・水揚金額の動向(9～12月)

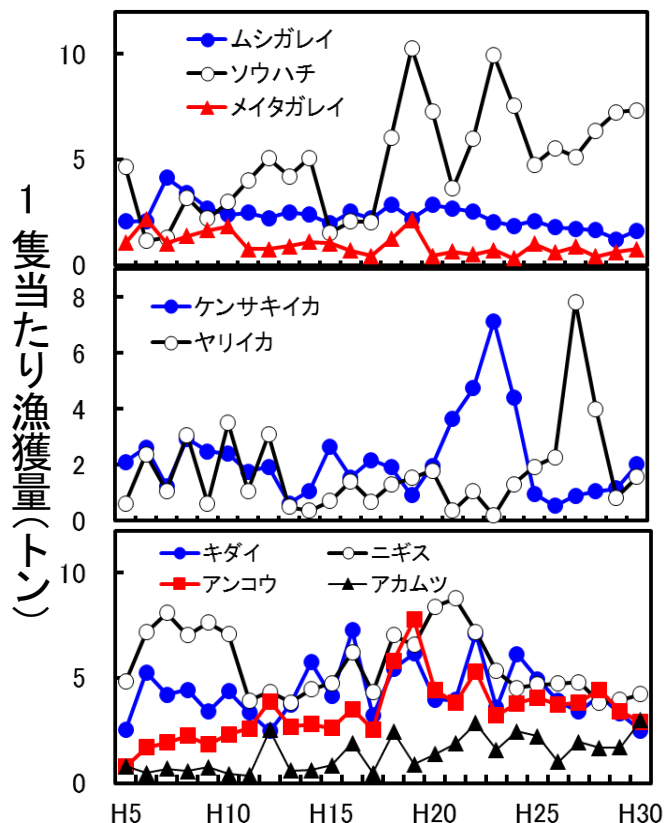


図2 小型底びき網漁業における主要魚種の動向(9～12月)

沖合底びき網漁業（2 そうびき）（県西部）

1 統当たり水揚量・金額 平年並みの推移

浜田港を基地とする沖合底びき網漁業(5統)の平成30年漁期前半(平成30年8月16日～12月31日)の総漁獲量は1,622トン、総水揚金額は7億7,070万円でした。1統当たりでは、漁獲量324トン、水揚金額1億5,414万円で、平年並みとなりました(過去10年平均311トン、1億5,421万円)。

カレイ類 平年並み

主要魚種であるムシガレイの1統当たり漁獲量は37トンで、前年の1.2倍、平年並みの水揚げでした。ソウハチの1統当たり漁獲量は24トンで、前年の8割、平年並みの水揚げでした。また、ヤナギムシガレイの1統当たり漁獲量は9トンで前年の9割、平年並みの水揚げでした。

平年と比較してソウハチは8～9月の漁獲が不調でした。

ケンサキイカ 前年の3倍で好調

ケンサキイカの1統当たり漁獲量は27トンで、平年並みでしたが、前年の3倍の水揚げとなり、漁期を通して好調に推移しました。一方、ヤリイカの1統当たり漁獲量は10トンで、前年の2.1倍、平年の2.5倍の水揚げとなりました。

アカムツ好調

キダイの1統当たり漁獲量は34トンで、前年・平年の1.2倍の水揚げとなりました。

アカムツの1統当たり漁獲量は30トンで、好調だった前年を下回りましたが、平年の1.7倍の水揚げとなりました。今期も前期同様に小型サイズ(メッキン銘柄)が多く、漁獲量の約7割を占めました。

その他、ニギスの1統当たり漁獲量は2トンで平年の3割、アンコウの1統当たり漁獲量は35トンで平年の1.9倍、アナゴ類の1統当たり漁獲量は18トンで平年の8割の水揚げとなりました。

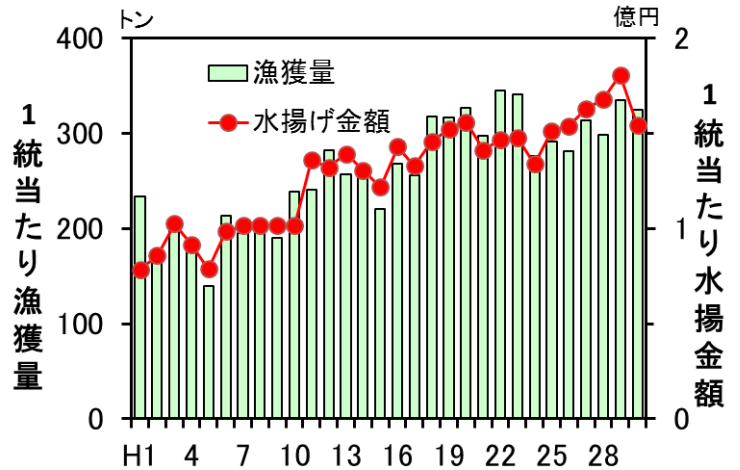


図3 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における1統当たり漁獲量と水揚金額の動向(8～12月)

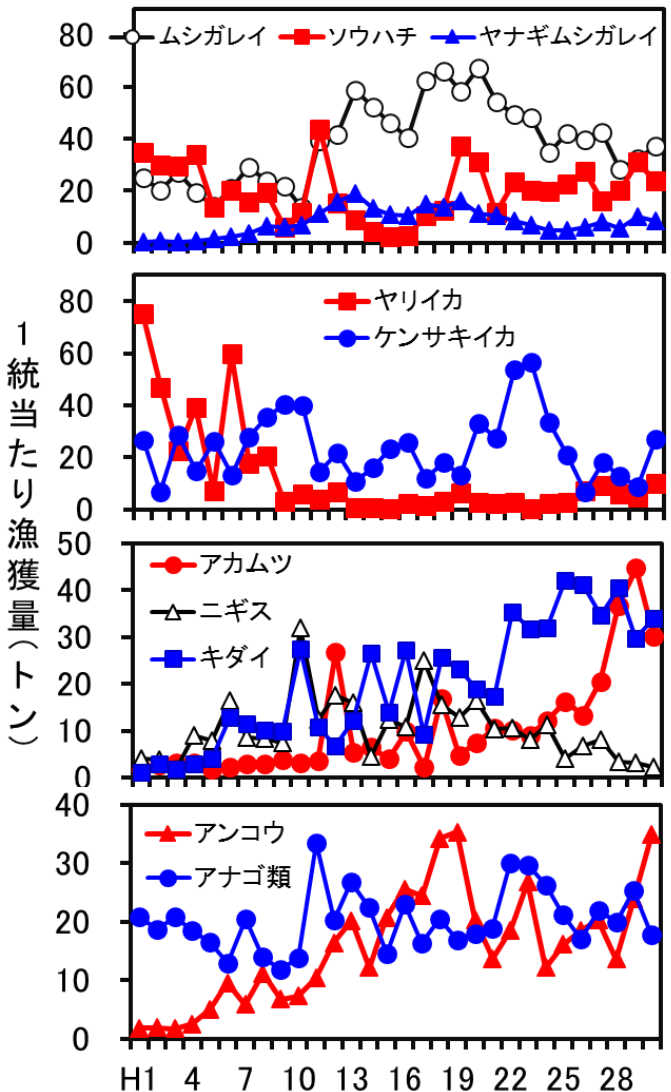


図4 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における主要魚種の漁獲動向(8～12月)